横浜市立 神橋小学校　　令和5年度

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「わたしも大事　あなたも大事　だれもが主役　　みんなでつくろう神橋小学校！」
学び合い　高め合い　【知】【体】
つながりあい　　【公】【徳】
未来を切り開いていく子ども達　　【開】

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	具体化した資質・能力
○主体的・対話的な学び合いを通して身につける、生きて働く(活用できる)知識 ○自己肯定感・自己有用感とともに多様性を認め合う豊かな心 ○体験・ふれあいを通して育む豊かな感性と、協働的に学ぶ姿勢。	主体性　課題発見力　問題解決力 対話力　協力性　活用力 自己肯定力　寛容性

中期取組目標

◎子ども達一人ひとりを大切にしながら、「ふれ合い・学び合い・高め合い」を大切に、まちとともに歩む学校にする。
○主体的・対話的で深い学びを具現化するため、確かな言語能力を身に付け、自分の考えをもつ力、相手の思いを受け止める力、対話により自分の考えを深化させる力などを育み、生きて働く知識を向上させる。
○インクルーシブ教育の視点で、一人ひとりが自己肯定感、自己有用感をもつとともに、学習の楽しさを実感できる授業を推進する。
○互いの違い、多様性を認め合い、誰もが安心して楽しい学校生活が送れるように、人権教育、特別支援教育の充実を図る。
○ふれあい活動を充実させるとともに、まちの人とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、人やまちを愛する心を育てる。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知 担当　学習・ICT部	b1①教育課程全体で育成を目指す資質・能力の意識をした具体的な授業づくりをめざす。そのために、各学年のつながりを重視するために、研究会の進め方を工夫する。②昨年度と同じ教科の研究のため、今まで使用していた教材や学習プリントを活用し、さらにICTを活用した方法を見つけていく。

学力向上に関わる本校の状況

本校は、主要4教科ともに学力的にはほぼ市の平均値を上回っている結果であった。特に社会は市平均よりもかなり高いといえる結果となった。しかしながら、学習意識はというと社会と算数が市平均を下回るという結果になっていた。
上記経年変化で見ると、過去4年では、学力においてはどの教科においてもほぼ市平均を上回っており、水準をキープできている。しかし、学習意識は一昨年度ほどではないものの市の平均を下回ってしまう教科も見られた。生活意識では、昨年度よりも安定がみられてきた。要因としては、体験的な学習に重点を置いて総合的な活動の時間等に取り組み、出前授業などにも力を入れてきたことも考えられる。しかし、一方で知識偏重の学年も見られるところは課題であるといえる。

今年度の目標

重点目標「確かな学力」 話合い活動を大切にし、自分の考えを表現したり交流したりできる授業展開を工夫する。個に応じた学習支援をし、基礎基本の学力の定着を進める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	重点研究テーマを「自ら課題を発見し　学び合いを通して　解決することができる　児童の育成」とし、算数科の学習を通して身に付けさせていきたい。 学習指導要領の主旨を受け、「主体的・対話的な深い学び」の具現化に向け、児童が主体的に学ぶための授業改善に日々取り組んでいく。各教科において基礎基本の定着と学び合い高め合う子どもの育成を図るための授業展開を工夫していくとともに、TT、少人数指導、特別支援教育、国際教室などのチームティーチングを積極的に取り入れ、基礎基本の定着をめざす。
下半期	前期に行ってきた実践から身に付いた力、さらに身に付けたい力を共有し、さらに「主体的・対話的な深い学び」の具現化に向け、児童が主体的に学ぶための授業改善に日々取り組んでいく。また、人々との関わり合いを軸にした探究活動や体験活動を多く取り入れ、豊かな学びの場を提供する。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心 担当　児童指導・インクルーシ部、道徳部	b2①外部講師を招いた研修を計画し、職員の人権意識を高めていけるようにする。②互いの違い、多様性を認め合ったり、自己肯定感・自己有用感を高めたりし、誰もが安心できる学校経営・学級経営ができるような力を育成する。

豊かな心に関わる本校の状況

歴史ある学校で、地域の方々は学校教育活動に協力的である。学習や活動に熱心に取り組む児童が多いが、自分のよさを自覚し、それをアピールできる児童は少ない。ルールの大切さは知っていても、守れないことがある。

今年度の目標

・全教育活動を通して道徳教育の充実を図る。
・子ども一人ひとりの能力に応じた適切な指導や支援のあり方を明確にすることで、だれもが自信をもって生活できるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	○道徳教育の要となる道徳の時間の指導を通して、子どもが道徳的見方・考え方・感じ方を多様に広げ、自己を深く見つめ、よりよく生きようとする道徳的実践力を身につけられるようにします。(視点1) ・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と、各学級の道徳の時間の関連を図り、豊かな体験を生かして指導を行う。 ・年1回以上、保護者や地域に道徳授業を公開する。 ・懇談会で道徳について話題にし、家庭との共通理解を図る。 ・定期的に生活アンケートを行い、学級実態の実態に応じてYPプログラムを実施する。また、結果を共有する。
下半期	○特別支援教育の充実を図り、子ども一人ひとりの能力に応じた適切な指導や必要な支援を行うことで、豊かな心を育て充実した生活が送れるようにします。(視点8) ・自閉症スペクトラム等の障害特性を理解するための研修を行い、子ども一人ひとりに応じた指導・支援方法を明らかにしていく。 ・ユニバーサルデザインに視点を置いた授業改善や学習環境の整備を図り、だれもが活躍できる授業作りを目指す。 ・個別支援学級・一般学級の交流を通して、学びあいながら相互理解を深めたり、社会的適応力を高めたりする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体 担当　保健・安全部	b3昨年度に引き続き、①日々の体育学習の充実を図り、運動を楽しみ、運動に親しむ子の育成を図る。②児童委員会活動を通して、食育や保健教育、体力づくりの充実を図る。

健やかな体に関わる本校の状況

(1)本校の状況
○横浜市体力・運動能力調査では、「朝ごはんを毎日食べている」児童の割合が多いが、それ以外の児童が一定数いる。
○同調査において、「睡眠時間が7時間未満」の児童の割合が男子18.2%女子8.5%となっている。
○同調査において「体育の授業で自分の動きの質が向上していることを実感しない」割合が、男子27.3%、女子14.6%と男子は市平均より約10%高くなっている。
○体育科基本調査(令和3年度)6年生の器械運動の技の通過率はどの技も市の平均を下回っている。

(2)これまでの学校の取り組み状況
○体力テストのデータに基づき、瞬発力を高めるために、陸上運動を重点領域として体育の授業を行ってきた。また、朝の時間を活用し、「なわとび運動」を実施し、月1回短縄に取り組んできた。

今年度の目標

○体育の授業改善を図り、学習の中で運動の「する」「見る」「支える」「知る」楽しさを味わい、運動に親しむ態度を養う。
○生活習慣と健康についての知識を増やし、自らの健康への関心を高める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	○体育科の授業改善を図るために、体育の授業における悩みを共有し、実技研修・指導法研修を校内で行い、職員の知識及び指導力の向上を推進する。実技研修においては器械運動の技のポイントを知り、どのような声掛けが児童にとって分かりやすいのか考える。指導法研修においては、単元計画の組み方や毎時間のめあて、児童の思考の流れなどについて体育部が中心となって全職員に伝える。 ○「保健だより」での情報発信や「パクパクチャレンジ」の実施を通して、児童に自分の健康状態や生活習慣について振り返る機会を設ける。また、自分の生活習慣の課題を見つけ、解決に向かっていくために必要な知識を学習できるよう、内容の充実を保健・安全部が中心となって行う。 ○神橋健康会議において本校の課題を話し合い、一人一人が健康に対する意識を高めるとともに課題解決をしようとする力を育てていく。
下半期	○実技研修・指導法研修で得たことの実践報告をし、さらに改善したり深めていったりできるよう情報を共有する。 ○パクパクチャレンジを積み重ねていくことにより、健康に対する意識を高め、一人一人が具体的な目標をもつようにする。